科目名：成人臨床看護Ⅲ	必	1 単位（45 時間）

（　Adult　Clinical　Nursing　Ⅲ　）

履修年次/時期：２年次　前期　　授業形態：講義・演習

担当教員：棚橋泰之（実務経験有）　松田謙一（実務経験有）

学修目的	慢性的な疾患をもつ人・家族がセルフケア能力を高め、疾患と生活に折り合いをつけながら、その人にとって最適な健康状態になるような看護に関連する理論と方法を修得する。さらに、事例を通して、具体的な実践方法について修得する。CP1，2，3，4，5，6 に関連する。　科目№KNz-210		
この科目が目的としているDP	１．医療専門職としての倫理観を有する。	（１）生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		（２）医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	２．医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	（１）教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		（２）専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		（３）社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	３．健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	（１）多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		（２）優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		（３）看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎：　この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○：　この講義・演習・実習と関連がある DP		
到達目標	①慢性疾患をもつ人の特性を理解し、看護アセスメントに活用できる。 ②慢性疾患患者に適用できる理論や概念について理解できる。 ③事例を通して、慢性疾患をもつ人・家族の看護診断を明確にし、看護計画を立案することができる。 ④慢性疾患をもつ人・家族への具体的な援助技術、援助方法を理解することができる。		
授業概要	慢性的な疾患と共に生活する人のセルフケアとその看護を学ぶ。慢性的な疾患を持つ対象が、疾患と生活に折り合いをつけて、自分らしく生きていくその過程を理解し、支援していくための概念や理論を用いて、具体的な実践方法について学ぶ。		
評価方法	学習成果　30% 看護過程の展開　70% 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】0.1 時間 【復習】0.1 時間		
教科書	系統看護学講座　成人看護学総論(医学書院)　　系統看護学講座　臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）　系統看護学講座　内分泌・代謝(医学書院) 系統看護学講座　腎・泌尿器(医学書院) 看護過程実践ガイド（基礎看護学　看護過程の授業で使用したもの）		
参考書	授業の中で紹介する		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ連絡先	tanahashi@kdu.ac.jp　不在時はメールで連絡をお願いします。		

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1（　/　）	ガイダンス ①　当該科目で取り組む学習内容がイメージできる。 ②　学習計画が立案できる。 慢性期患者の看護 ①　慢性期患者の特性が理解できる。 ②　成人期にある人々が慢性疾患を患う事の意味が理解できる。	[予習]教科書　臨床看護学総論、慢性期について復習しておく。 [復習] 授業内容を復習する。 [キーワード]　成人期の発達課題、エリクソン、ハヴィガースト、病みの軌跡モデル、軌跡の予測と編みなおし	講義 〇棚橋
2（　/　） 3（　/　） 4（　/　） 5（　/　） 6（　/　） 7（　/　）	慢性疾患患者の看護（1）肝硬変事例 ①　事例の病態生理、治療、検査を病態関連図に描写できる。 ②　フェイスシートが適切に記載できる。 ③　必要な機能的健康パターンの看護アセスメントができる。 ④　看護アセスメントの結果を全体像関連図として示すことができる。 ⑤　学びのプロセスを他者に説明できる。 学修成果物 1．フェイスシート 2．病態関連図 3．機能的健康パターンのアセスメント 4．全体像関連図 知識確認テスト（10 点）	[予習]事例の看護過程を展開する。 [復習] 授業内容を振り返り、看護展開に活用する。 [キーワード] 慢性肝障害、びまん性の線維化、肝小葉構造の破壊、門脈圧亢進、代謝障害、非代償性、肝性脳症、黄疸、クモ状血管腫、手掌紅斑、出血傾向、腹水、腹壁皮下静脈の怒張、食道静脈瘤、肝機能障害を示す血液データ、画像診断、薬物療法、食事療法、行動変容、栄養指導、自己効力感、不安、健康知覚 - 健康管理パターン、栄養 - 代謝パターン、活動 - 運動パターン	講義・演習 〇棚橋
8（　　） 9（　/　） 10（　/　） 11（　/　） 12（　/　） 13（　/　） 14（　/　） 15（　/　）	慢性疾患患者の看護（2）慢性腎不全事例 ①　事例の病態生理、治療、検査を病態関連図に描写できる。 ②　フェイスシートが適切に記載できる。 ③　必要な機能的健康パターンの看護アセスメントができる。 ④　看護アセスメントの結果を全体像関連図として示すことができる。 ⑤　学びのプロセスを他者に説明できる。 学修成果物 1．フェイスシート 2．病態関連図 3．機能的健康パターンのアセスメント 4．全体像関連図 知識確認テスト（10 点）	[予習]既習した慢性腎不全について復習しておく。 [復習] 授業内容を振り返り、看護展開に活用する。 [キーワード] 慢性腎不全（CRF）、慢性腎臓病（CKD）、GFR、糖尿病性腎症、食事療法、薬物療法、透析療法、血液透析療法、腹膜透析療法、腎移植、尿毒症、CKD の重症度分類、腎障害を示す血液データ、画像診断、胸水、心胸比、体液量過剰、健康知覚 - 健康管理パターン、栄養 - 代謝パターン、活動 - 運動パターン、排泄パターン、役割関係パターン	講義・演習 〇松田

１６（　／　） １７（　／　） １８（　／　） １９（　／　） ２０（　／　） ２１（　／　）	慢性疾患患者の看護（３）糖尿病事例 ①　事例の病態生理、治療、検査を病態関連図に描写できる。 ②　フェイスシートが適切に記載できる。 ③　必要な機能的健康パターンの看護アセスメントができる。 ④　看護アセスメントの結果を全体像関連図として示すことができる。 ⑤　学びのプロセスを他者に説明できる。 学修成果物 1.　フェイスシート 2.　病態関連図 3.　能的健康パターンのアセスメント 4.　全体像関連図 5.　援助計画立案 知識確認テスト（10 点）	[既習したⅡ型糖尿病について復習しておく。 [復習] 授業内容を振り返り、看護展開に活用する。 ［キーワード］ Ⅱ型糖尿病、インスリン抵抗性、診断基準、糖尿病の検査、食事療法、運動療法、薬物療法、インスリン注射、自己血糖測定、高血糖症状、低血糖症状、慢性合併症、健康知覚 - 健康管理パターン、栄養 - 代謝パターン、活動 - 運動パターン、コーピングパターン	講義・グループワーク 〇棚橋
２２（　／　）	糖尿病患者への学習支援 ①　援助計画に基づいてケアを実践できる。	[予習]援助計画に基づいた援助場面をイメージしておく。 [復習]授業を振り返り援助計画の修正を行う。 [キーワード]シミュレーション、アンドラゴジー、セルフマネジメント、コミュニケーションなど	演習 〇棚橋
２３（　／　）	慢性期看護のまとめ ①　慢性期看護についてグループワークを行い、慢性期看護に必要な視点を明確にできる	[予習・事前課題]慢性期看護についての自分の考えをレポートに記載し提出する。 [復習]グループワークや発表会を踏まえ、慢性期看護について整理する。 [キーワード] セルフケア、アドヒアランス、コンコーダンス、エンパワメントなど	演習・ジグソー学習 〇棚橋